

No.66

け  
や  
き

特 集  
REPORT  
石井登志子さん講演会  
2022年度総会・図書館交流会

図書館友の会けやき ニュースレター 2022.11.25

## 特集 石井登志子さん講演会

ーリンドグレン その人と作品に魅せられて

～『リンドグレンの戦争日記 1939-1945』を読んで思うことー

『長くつ下のピッピ』、『やかまし村のこどもたち』など数々の児童文学作品を書いたスウェーデンの作家アストリッド・リンドグレン。彼女は作家になる前の32歳から6年間、第二次世界大戦の様子を日記に書き留めていました。その日記をまとめた『リンドグレンの戦争日記』が本国スウェーデンでは2015年、日本では岩波書店から2017年に出版されました。その翻訳を手掛けた翻訳家の石井登志子先生に、「リンドグレン その人と作品に魅せられて～『リンドグレンの戦争日記 1939-1945』を読んで思うこと」と題し、ご講演いただき、43名の参加がありました。

### 主婦が見た「戦争」

まず石井先生は、リンドグレンの『戦争日記』には、戦況だけでなく、物価の高騰や買いだめのことなど、人々の暮らしぶりや、自分の子どもたちの病気や学校の成績のこと、また自然の美しさや、リンドグレンが生涯持ち続けたであろう世界の子どもに対しての思いや平和についての彼女の

哲学まで書きつづられていると説明。また彼女は、戦時下、スウェーデン政府管轄の秘密の仕事であった手紙の検閲官として働いていたため、メディアが報じない戦地の現状を知ることができたと、日記の背景を解説されました。

先生がこの本を読んで驚いたことは、30代前半の主婦であったリンドグレンの文章力と長い日記を書き続けた忍耐力、そしてすべての国の子どもたちのことを想像し、思いやる視野の広さでした。長い物語を書くには根気がいりますが、6年間日記を書き続けたことで、リンドグレンは作家になったのではないかと先生は話されました。

### 日記をつけたわけ

では、リンドグレンはなぜ『戦争日記』を書いたのでしょうか。石井先生は、彼女が幼いころ、父親から第一次世界大戦について、様々な話を聞いていたことがベースになったのでは、そしてやっと終わったはずの戦争が21年後、また始まってしまったことに対し「どうして人間は戦争をするんだろう？」と疑問を感じたからではないかと話されました。

## 平和への思い

戦争が激しさを増すなか、独裁者たちへの怒りの言葉とともにリンドグレーンが書いたのは、戦火に見舞われている子どもたちへの思いでした。石井先生は、彼女がポーランドやフィンランドの子どもたちだけでなく、ドイツやロシアの子どもたちに対しても思いを寄せていることに驚いたといいます。先生は1943年8月6日の日記の一節を読み上げました。「ドイツでは激しい爆撃が続いている。ハンブルグのひどい近況報告を読むと泣かずにはいられない。考えてもみて、ハンブルグには子どもも残っているのよ。胸が張り裂けそうで、耐えられない」。

先生は、リンドグレーンのこの深い悲しみが、のちの「暴力は絶対だめ！」というスピーチにつながったと説明。1978年リンドグレーンは、ドイツ書店協会平和賞授賞式で子どものころに受けた暴力の記憶が戦争につながっているとスピーチし、これをきっかけに、スウェーデンでは子どもは一切の暴力を受けてはいけないという法律ができ、それがほかの国にも影響を与えたと、先生は話されました。

講演中、石井先生は何度も、現在ロシアに攻め込まれているウクライナについて触れられました。日記の中で、リンドグレーンは、ロシア（当時はソ連）に攻め込まれ、恐怖の戦いをしていた隣国フィンランドのことも詳しく書いています。80年前にリンドグレーンが感じた悲しみを石井先生から聞きながら、今戦地にいる子どもたちのことを皆で考える時間となりました。

## 翻訳家という仕事

後半は石井先生とリンドグレーン作品の関わり、翻訳という仕事についてのお話に移りました。

2019年、『やかまし村の子どもたち』の石井先生による新訳が出版されましたが、この話がきたときは、「大塚勇三先生の素晴らしい訳があるのに、わたしがしてもいいの？」と戸惑われたそうです。しかし、挿絵がイングリッド・ニイマンに変わると聞き、それならばと、引き受けたとのこと。日本では長く、イロン・ヴィークランドの挿絵で愛されてきましたが、本国スウェーデンで最初に出版されたときはニイマンの挿絵で、今もスウェーデンの子どもたちには、ニイマンの絵が最も親しまれているそうです。

新訳は、必ず旧訳と比べられる試練がありますが、10人

が訳したら10通りの翻訳があり、完璧な翻訳は存在しない、と石井先生。だから訳すときは、自分でルールを決めるそうです。リンドグレーン作品に関しては、「100%正確に、そして人物が際立つように」がルール。そして、リンドグレーンが大切にしていたように、文章を耳から聞いた感じやリズムにこだわって、訳した文章を何度も読み上げるそうです。

翻訳をする際、原書を何度も読むうちに、日本語訳が浮かんでくるそう。それを「後ろから言葉が押し寄せてくる感じ」と表現されました。また、できるかぎり正確に訳すため、たとえば料理の名前が出てきたら、作り方までお友達に聞くとのこと。「訳した文章は一行でも、その下に調べたことがいっぱいあるんです」と話されました。

## いつのまにか翻訳家に

質疑応答では「なぜ翻訳家に？」という質問がありました。30代、夫の仕事の関係で家族4人でスウェーデンに移り住んだこと、ルンド大学には外国人も無料で学べるクラスがあり、そこでスウェーデン語を学び、日本に帰ると、スウェーデン語ができる人がいると聞きつけた出版社から仕事の依頼があったことを、ユーモラスに話されました。初めて翻訳したエルサ・ベスコフの『リーサの庭の花まつり』は、出版されるまで自分は下訳なのではと、半信半疑だったけれど、できあがった本に「やく 石井登志子」と書かれているのを見て「ほんまやったんや！」と驚いたそう。先生は、終始謙虚な姿勢で「～という仕事をさしてくれはったんです」と、長い翻訳家としてのキャリアを振り返っておられました。(澤田)



講演会の様子

### 三年越しに実現した翻訳家石井登志子さん講演会

秋晴れの2022年10月15日、コロナ禍に阻まれ二度の延期を余儀なくされた翻訳家石井登志子さんの講演会を、ようやく実施することができた。あきらめきれないでいたけやき事務局につきあって何度も講演予定日を更新してくださった石井登志子さんに、感謝しお礼を申し上げたい。

左京図書館では2002年度より毎年、けやきと左京図書館が共催し、講演会や原画展等の行事を実施している。これはけやき発会時からの「図書館行事の充実を」との要望が実ったもので、主に地元左京区在住の本に関わる素晴らしい活動をされている方に講師を依頼、これまで十数回の講演会を企画し開催してきた。

石井登志子さんは、アストリッド・リンドグレンやエルサ・ベスコフの児童文学や絵本を中心に100冊近い翻訳作品を出版されている。それらの翻訳作品を読み、そして何度かご講演を拝聴し、また、左京区にお住まいであることも知って、けやきの講演会にぜひお招きしたいものだと常々願ってところ、2019年秋よりリンドグレンの『やかまし村の子どもたち』シリーズを新たに翻訳出版されたのを機に、「リンドグレン その人と作品に魅せられて～『やかまし村の子どもたち』の新訳を終えて」と題したご講演をお願いしたのだった。

それから3年近くが経ち、その間にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、今回の講演の主たるテーマは「『リンドグレンの戦争日記 1939-1945』を読んで思うこと」となった。石井さんは、穏やかな語り口で、リンドグレンと石井さんの「戦争」に対する憎しみとリンドグレンの思考の深さや視野の広さを、参加者にしっかりと伝えてくださった。参加者の方にも大好評で、改めて講演会を開催できたことをうれしく思った。(永井)



『リンドグレンの戦争日記 1939-1945』  
アストリッド・リンドグレン著 石井登志子訳 岩波書店

#### 参加者アンケートより

- ・戦争日記のお話は今の世界情勢の中で大変心に残るものでした。
- ・戦争日記執筆中の時代背景がよく分かり、普段戦争物は手に取らないが、この機会に読んでみたいと思った。
- ・お話しするのは苦手とおっしゃいましたが、私は今まで数々の本を訳されている遠い存在の石井先生に親しみを覚えました。
- ・「ピッピー」などの愉快で楽しいストーリーは背後に社会への厳しい視線と平和への願いが込められているのだと思いました。



No.66

#### 生きる冒険地図

ブルスアルハ著 学苑社 2019年  
旅には冒険がつきもので地図が必要不可欠。

家族に病気や障害、時には暴力があり、周りに頼れる大人がいない、自力で暮らす10代の子どもの日常の旅はとても大変だ。

毎日を精一杯頑張るそんな子ども達へ、優しいイラストと言葉で伝えたい事がてんこ盛り。「食料の確保、学校生活ピンチ時の攻略、頼れる大人を探す冒険、自分の心と身体を守る方法、助けてくれる情報と窓口 etc」

ヤングケアラーの存在が、やっと社会問題化してきたけれど、この本を通じ、私達も頼れる大人の1人になりたいと思った。

(左京区 佐藤友子)



## REPORT 2022 年度 図書館友の会けやき

### 総会・図書館交流会

2022 年 6 月 10 日

図書館友の会けやき総会と図書館交流会を3年ぶりに集会形式で開催しました。コロナ禍、感染防止対策としてできるだけ短時間で終わるよう、けやきの予算案や活動方針案、左京図書館の活動報告資料も事前に会員に送付しました。例年は総会に続いて、図書館職員とけやき会員が参加する図書館懇談会と、左京図書館に関わる全てのボランティアの交流を目的としたボランティア交流会を実施していましたが、今年度は「図書館交流会」として二つを合わせて実施しました。

#### 図書館友の会けやき総会

今回で24回目となる総会は、山田左京図書館館長、木俣左京区社会福祉協議会事務局長にお越しいただき、けやき会員14名が参加して行われました。まず山田館長から、「3年ぶりの顔を合わせての総会開催おめでとうございます」と挨拶をいただきました。続いて、木俣事務局長は、コロナ禍における区社協の活動と、図書館・けやきの活動に共通する役割や課題を挙げ、適度に人の気配が感じられる場所の必要性について話されました。

2021年度活動報告、2022年度活動方針案については会計報告、予算案とともに、事前に会員に送付しており、出席者の拍手をもって承認されました。

最後に、けやき代表の永井が、全国的に図書館の状況が変わりつつあるなか、今年度も市民の望む京都市図書館のあり方を考えていきたいと締めくくりました。

#### 図書館交流会

総会に続いて行われた図書館交流会には、けやき会員のほか、山田左京図書館館長と福田副館長、図書館で書架整理等を行うボランティア1名が参加しました。

まず山田館長から、左京図書館の2021年度の利用状況について、説明がありました。前年度との比較に加え、コロナの影響がなかった令和元年度のデータとも比較。令和元年度より入館者数と貸出冊数はダウンした一方、左京図書館を受け取り館とする予約冊数はアップしたなど、コロナ禍による利用状況の変化がわかりました。

また、昨年度は実施できなかった恒例行事（けやき共催講演会・赤ちゃん絵本ふれあいタイム・鉄道模型運転会・左京図書館ビブリオバトル）も、今年度は実施していきたいとのこと。福田副館長は、赤ちゃん向けのイベントを、何らかの形で実施したいと話されました。

次に、会員のアンケートから、レファレンスカウンターなどにわかりやすい案内があればより相談しやすくなる、開催予定のイベントを事前に知る手段を工夫してほしいといった、図書館への要望を紹介。交流会出席者からも、他館（特に岩倉図書館）とチラシを交換したり、ホームページで近日開催予定のイベントを一覧できるようにしたり、ツイッターを活用したりしてはどうかと、提案がありました。

続いて、交流会開催時に図書館内に置かれていた「号外」について、副館長から説明がありました。KBSテレビで放映されたアニメ「दैあいもん」に左京図書館が出てきたというニュースを「号外」にして館内で配布、関連資料も展示。京都市図書館のツイッターでこの話題を取り上げると、100件以上の「いいね」がつくなど反響があり、中高生に向けたアピールをこれからもしていきたいとのことでした。

#### 光のカケラ

三日月島のテール5

竹下文子作 鈴木まもる絵 偕成社 2022年

私の大好きな「黒ねこサンゴロウ」シリーズの続きが出ました。三日月島に住む「ドルフィン・エクスプレス」の配達員、猫のテールが主人公のお話です。テールは様々な謎や事件にま

きこまれます。私はワクワクドキドキしながら全巻読み終えました。テールは無事にトラブルを解決できるのか？サンゴロウはいつ出てくるのか？みなさんもぜひ、海の冒険に参加して下さい。

(小4 CHIKA)

この本は岩崎書店版(2007年)の新装改訂版

左京図書館ボランティアの方に、活動状況や図書館への要望について発言していただきました。左京図書館で2年間、書架整理、本の修理などのボランティアをしているが、ボランティア同士のつながりが無い。今は書架がいっぱいで、返却された本を書架に戻せない、本を修理するスペースがないなど、ボランティアの仕事をするなかで感じていることを話してくださいました。

これに対し、副館長から、コロナの影響で書架に本がたくさんあるが、除籍などをして、作業しやすい棚づくりに向けて動き出していると説明がありました。

ボランティアと職員との意思疎通の大切さや、ボランティア同士のつながり、日頃の活動で気づいたことなどをフィードバックする場の必要性を改めて感じました。

最後に、会員のアンケートにあった「図書館は本があり、本のことを訊ける人がいる所です」という声を紹介。市の厳しい財政状況の中、図書館の予算、特に人件費が削られ、図書館の役割が損なわれていくことがないようにしてほしいと、けやきの思いを伝えました。短時間ながらはじめて出会う方もあり、年に一度、顔を合わせて話をする場があることの大切さを感じた交流会でした。(澤田)

## けやきの活動記録

2022年 6月～11月

- 6/10 第24回図書館友の会けやき総会、図書館交流会 開催
- 6/24 左京区社会福祉協議会ボランティア連絡会出席
- 10/3 「読み聞かせ交流会」第1回開催
- 10/13 「読み聞かせ交流会」第2回開催
- 10/15 「石井登志子さん講演会」開催
- 10/18 「読み聞かせ交流会」第3回開催
- 11/25 ニュースレター66号 印刷・発送

<事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1金曜日)  
6/3, 7/1, 8月はメール会議, 9/2, 10/7, 11/4

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜日)  
6/25, 7月、8月は中止, 9/24, 10/22

<絵本学習会> (第4金曜日、3,7月は第2金曜日、8月は休み)  
6/24, 7/8, 9/23, 10/28

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>  
(毎週木曜日 10:30～12:00)  
休止中

## 滅びの前のシャングリラ

風良ゆう著 中央公論新社 2020年

1ヶ月後に小惑星が地球に衝突し、滅亡する。

いじめられていた少年、人を殺した男、暴力を振るう恋人から逃げた女、そして自分を殺し続けた歌姫。刻一刻と迫る最期の瞬間まで、荒廃していく世界で彼らはどう生きるのか。

決して平穏とは言えなかった家族は、「いまわのきわ」の世界で幸せを掴むことができるのか。

2020年に『流浪の月』で本屋大賞に輝いた風良ゆう先生の、「幸せ」とは何かを考えさせられる1冊です。

(左京図書館 藤田)

## 図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

### であいの森

左京図書館のおとのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。  
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

### 「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

### 誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

### ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

### 事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

### 絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

### 講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番  
口座名称 図書館友の会 けやき

◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。

◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。  
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

## けやき情報版

### 第22回 おとなのための語りを楽しむ会

日時：2023年2月18日（土）午後2時より  
会場：左京図書館階上3階会議室

京都おはなしを語る会のメンバーが、日本や外国の昔話や創作のお話を語ります。ゆったりと豊かなひとときをお楽しみください。子どもさんもどうぞ。

### 図書館で発表会

毎年恒例の「図書館で発表会」。図書館の資料を活用した成果を、左京図書館で展示してみませんか？子どもの自由研究や手芸、絵や写真、旅行プランなど、図書館で展示できるものならなんでもOK。来年2月下旬以降開催予定です。展示したい作品があれば、ご準備ください。たくさんのご応募をお待ちしています。

### 赤い羽根共同募金



ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

## 編集後記

子どものころに足しげく通った地元の図書館、リンドグレン作品がどこに並んでいたか、今でも覚えています。本のなかの遠い北欧の暮らしに憧れつつ、その暮らしを自分なりに思い描くことができたのは、私の想像力のたまものではなく、翻訳者が日本で生活する子どもにわかるように言葉を選び、ていねいに訳してくれたからなのだ、とごく当たり前のことに気づいた講演会でした。（澤田）

この秋は彼方此方で、三年ぶりに開催に漕ぎ着けたという話を聞きます。今回ようやく「石井登志子さん講演会」を開催することができ、会場はこの日を待っていた皆さんが講師のお話に聞き入る静かな熱気に満たされました。一方秋の恒例「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」は3回のべ70名程の参加を得、初参加の方も。図書館という場で絵本を軸に学び、交流する機会を今年も途切れず提供できました。報告は次号にて。（島崎）

◇けやき 第66号 2022年11月25日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部  
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : [info@totomo-keyaki.com](mailto:info@totomo-keyaki.com)